

「この人 111」

村松道夫 静岡県 七十五歳

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

村 松 平成二十二年に、郷土の俳人、松島十湖翁にちなんだ「十湖俳句会」に入会し、俳句を始めました。作った句のうち三割位は滑稽俳句になってしまうのですが、『俳壇』の「滑稽俳壇」に初めて投句した句が特選の栄を賜りました。子ども達の勧めもあり、滑稽俳句に邁進しております。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

村 松 頭の柔軟性を蘇らせ、日々の生活を活性化してくれることですね。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

村 松 辿れば「俳諧」につながっていますね。ユーモアを解さない人間は面白味がありませんが、俳句に滑稽味が加わると人間味が増します。それに、そもそも洒落や滑稽は、日本人の本質の一つでもあると思います。

編集部 滑稽俳句を続けて良かった事は？

村 松 自分を含めて世の中が明るく、豊かになるような気がします。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

村 松 まだまだ「日暮れて道遠し」ではありますが、物事を見極める目を養うことでしょうか。

【代表句】

五十年尻たたかれて農始
花吹雪浴びて貧乏忘れけり
沖縄忌愚者の歩みをいつ止めん
糸瓜忌や俳諧の道徘徊す
関白のやうな妻居る神無月